

世界柔道選手権 大会の裏側で

～違反柔道衣について～

「互いに組み合って正しい技を掛ける」という柔道本来の姿を取り戻す事を真の目的とし、取り入れられた“柔道衣コントロール”。かつて、山下泰裕氏が国際柔道連盟(IJF)の教育理事をされていた頃に柔道衣コントロールが取り入れられ、違反柔道衣は姿を消したかと思われた。しかし、北京オリンピックを境に更に悪質な柔道衣が横行してきている。そこで、2011年の世界選手権大会に、柔道衣コントロールの係員として参加していた細川伸二氏に話を聞いた。



強化委員会委員・国際柔道連盟グランドマスターズ委員会委員 細川 伸二

柔道衣の規格が大幅に改定され、試合場に向かう選手達の柔道衣をチェックすることが主な仕事内容でした。柔道衣の硬さ、襟や袖のサイズ、そしてIJF公認のメーカーであるか、またそのロゴなど、チェックする内容は多岐に渡ります。改造された柔道衣、規定外サイズの柔道衣でやって来る選手、製造社名やIJFマークを付け替えてやって来る選手等々、違反は後を絶ちません。そして、そのような行為が意図的であると感じたときは、何かやるせない気持ちになりますが、柔道精神や本来あるべき柔道を継承するためにとの思いで厳しく指導していました。

日本では考えられないことではありますが、ユニフォームのドーピングともいえる行為が蔓延しているのです。もちろん、経済的な理由で規格内の柔道衣を購入できない選手もいますが、それに関してはIJFのサポートが得られるようになってきています。例えば、我々が購入する柔道衣の一部やゼッケン代などがそれに充てられています。今回は千着程の柔道衣が援助配布されていました。それでもコントロールをパスできない選手には毎試合、リザーブ柔道衣を着用させます。大変な作業です。嫌がる選手も多く改善の余地がありますが、今のところベストな対策だと思っています。

柔道衣コントロールを担当し、またグランドマスターズの委員になってから海外の役員と接することが多くなりました。当初は、「日本の柔道はこれからどうなっていくのだろうか」という不安を抱きながら関わっていましたが、徐々にその考え方も変わってきました。最近になって、強く感じるものがいくつかあります。それは、海外の多くの役員や柔道関係者が真剣に柔道の事を考え、その発展に貢献しようとしているということです。大会期間中の仕事ぶりを見る度に頭が下がります。また試合の時に語る彼らの柔道の話には説得力があります。ルール、柔道衣、大会運営、技術等々話は尽きません。日本側からみる以上に彼らは柔道と真剣に向き合っています。もちろん、政治的、商業的、あるいは私欲的なことなども見え隠れしている事もあります。しかし、海外の役員達が、日本で生まれた柔道がどうすればより発展していくかということも常に模索しながら活動していることは紛れもない事実です。そして、予想以上に日本を尊重し、理解を得ながら互いにやっていきたいと思っていることも感じました。

おそらく、ロンドンオリンピック後、審判規定をはじめ、いろいろな方面で新たな提案が出てくることでしょう。全ての日本柔道の関係者が、守るべき点、改善できる点、協力できる点等々を熟考していかなければならない時期に来ていると思います。私自身も、文化や言葉の大きな壁はありますが、地道に、そして、日本人としての誇りをもって活動していきたいと思っています。

さて、2011年世界選手権大会の結果は皆さんご存じの通りですが、男女共、軽量級のみ活躍となってしまいました。これは、ルールや柔道衣の規格改定が大きく影響したのではないかと思います。特に軽量級では、組み手争いや脚を直接取ることが勝敗を決定していたからです。反対に、中・重量級は実力で及ばなかったということです。コーチ、選手の益々の奮起に期待すると共に、私自身も強化委員会のメンバーとして陰ながら協力していきたいと思っています。

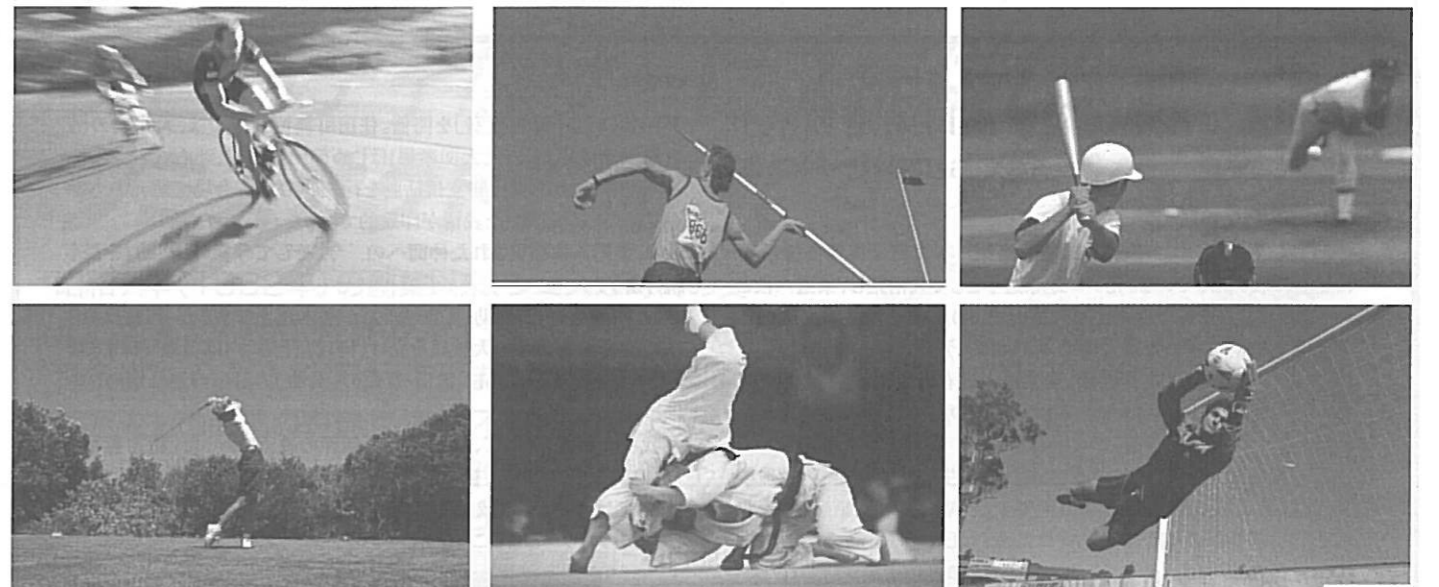
JAPAN AIRLINES

空のひと時も、忘れられない思い出に……。
手渡したかったのは、気持ちです。

oneworld member

JAL

明日の空へ、日本の真



近畿日本ツーリストでは、応援したい！参加したい！すべてのスポーツファンの“！”をアシストします！

近畿日本ツーリストのスポーツツアー専門サイト

KNT! SPORTS
<http://sports.knt.co.jp>



knt!
近畿日本ツーリスト

ECC 事業本部カンパニー